



さいたま市立宮原小学校 学校だより



令和8年1月30日 第10号

学校教育目標

・たがいに努める子(やる気)・たがいにきたえる子(元気)・たがいに手をとる子(勇気)

点と点をつなぐ学び

井上 雅史

3学期の登校日も、残すところ40日を切りました。令和7年度もいよいよ終盤を迎えています。子どもたちは、この一年間の学びや学校生活を振り返りながら、次の学年へ向けた準備も進めていますので一人ひとりの成長を確かめながら、残りの日々を大切に過ごしてまいります。

さて、この3月から、本校の学習環境に一つ大きな変化があります。これまで児童が使用してきた学習用タブレットの更新時期となりiPadが導入されることになりました。すでに新しいクラウド環境については保護者の皆様にお知らせしておりますが、操作方法や使用のルールなど、これまでと異なる点もあります。保護者の皆様にもお手数をかける面もあると思いますが、子どもたちが戸惑うことなく使いこなせるよう、丁寧に指導し、学習に効果的に生かしていきます。

みなさんご存知の通り、iPadはApple社が開発したタブレット端末です。そのApple社の創業者の一人スティーブ・ジョブズ氏は、今から20年ほど前の2006年、スタンフォード大学の卒業式でスピーチを行いました。このスピーチは「伝説のスピーチ」として、今もなお多くの人々に語り継がれています。このスピーチの中で、ジョブズ氏は「点と点をつなぐ」という考え方を紹介しました。「将来を見据えて、あらかじめ点と点をつなぐことはできない。しかし、後で振り返ったときに、それらがつながっていたことに気付く」という言葉です。

ジョブズ氏は大学時代、将来役にたつとは思えないまま、ただ自分の興味のあるカリグラフィ(美しい文字を書くための学び)の講義を受けていました。文字の形や間隔、デザインの美しさなどを学び、当時はそれが自分の将来にどのように役立つのかは全く考えていなかったそうです。

しかし10年後、最初のマッキントッシュ(パーソナルコンピュータ)を設計する際、その経験が生かされ、美しい文字を扱えるコンピュータが誕生しました。後から振り返ってみると、大学時代の一つ一つの学びがしっかりとここにつながっていたことに気付いたそうです。

この話は、「今すぐ役にたつかどうか分からなくても、目の前のことに誠実に取り組むことが、将来につながる」ということを表しています。毎日の授業や活動も、その場では将来何の役にたつのか意味が分からなかったり、興味をもてなかったりすることがあるかもしれません。しかし、その一つ一つがやがて未来の自分へとつながっていく「点」となっていくのです。

近年、AIの技術は急速に進歩しています。便利な道具として、学習や生活のさまざまな場面で活用が進んでいます。一方で、人にしかできない大切な力もあります。それは「創造」「共感」「体験」です。「創造」とは、自分なりに考え、新しいものを生み出す力。「共感」とは、相手の立場に立って考え、心を通わせる力。そして「体験」とは、自分自身で行動し、感じ、失敗や成功を重ねながら学んでいく力です。これらは、AIにはできない、人ならではの大切な力です。今後、ますます不確実性が高まっていく未来を豊かに生きるために必要な力でもあります。

学校では、体験を通して学ぶこと、友達と関わること、自分の考えを伝えることなど、一つ一つのリアルな学びの「点」を積み重ねることを今後も大切にしていきます。同時に、このリアルな学びを支えるものとして、デジタルを効果的に活用していきます。

子どもたちが、自分の学びの「点」を大切にしながら、次の一步を踏み出し、未来に向かって「点」をつなげながら自信をもって進めるよう、今後も教職員一同力を尽くしてまいります。